

順天堂大学医学部  
衛生学講座

環境医学と疫学の両輪で

衛生学講座は、1951年10月の阿部温男講師（順天堂医大、当時）の助教授昇任をもって始まりました。阿部助教授は、1956年10月に順天堂大学医学部で教授に昇任され、当講座は完全講座となりました。同教授の夭折後、1959年4月に菊池正一教授（当時群大助教授）が着任、1988年3月まで講座を担当されました。同11月に稻葉裕助教授（当時）が教授に昇任、2008年3月まで講座を継がれました。2009年4月からは横山和仁教授が三重大教授より異動し担当しています。講座の歴史の詳細は「菊池正一教授退任記念研究業績集」（1988年3月）および「時・稻葉裕教授退任記念誌」（2008年3月）をご覧ください。

本講座は（1）環境の健康影響とそのメカニズムの解明という環境医学・衛生学と（2）健康問題への取組みの手法としての疫学の2領域の研究と教育を行っています。現在の教室員は、横山教授のほか、黒沢美智子（准教授）、池田若葉・小林淳・松川岳久（以上助教）の常勤教員、非常勤職員（三橋博美、谷本菜歩）、院生（青木仕、泉宗美恵、東郷俊宏、萩典子、Dewi Utami Iriani）です。その他、非常勤講師・助教、協力研究員、リサーチアソシエイト、研究生等が研究・教育活動に参加しています。また、公衆衛生学講座、法医学研究室、環境医学研究所、スポーツ健康医学研究所や他大学・研究機関との協力を進めています。

横山教授は、現在、文部科研「開発途上国における環境汚染の発生・生殖影響に関する国際共同研究」（代表）および「発展途上国における室内空気汚染と居住者の健康影響に関する調査研究」（分担）と厚生労働科研「労働者のメンタルヘルス不調の予防と早期支援・介入のあり方に関する研究」（代表）、「思春期精神病理の疫学と精神疾患の早期介入方策に関する研究」（分担）および「化学物質の胎内ばく露による情動・認知行動に対する影響の評価方法に関する研究」（同）、ならびに「精神疾患への早期支援にもとづく精神障害者福祉の展開に関する研究」（三菱財団、代表）により、化学物質や心理社会因子の健康影響とこころの問題への社会医学的方策に取組んでいます。講座では、ほかに生活習慣病のコホート研究（東山梨）、難病の疫学研究、運動習慣の健康影響、健康の性差・地域差、自閉症の疫学、パーキンソン病の保健医療福祉サービス、研究倫理、微量金属の動態と生体影響、セレンの重金属毒性軽減作用などの研究が行われています。これには、黒澤准教授が分担する厚生労働科研「特定疾患の疫学に関する研究」、「稀少難治性皮膚疾患に関する研究」および「ベーチェット病に関する研究」と文部科研「がん特定領域大規模コホート研究」が含まれます。

特に、職域・地域・臨床場面での疫学調査、統計手法の応用、心理測定、微量元素分析などでの実績と経験は、順天堂大学内外の皆様のお役に立てるものと考えます。また、当講座では、抄読会（研究発表）、公衆衛生学講座との合同ゼミを各月1回開催しています。お気軽にお問合せください。HPは <http://plaza.umin.ac.jp/j-eisei/> です。



写真-2 抄読会（研究発表）の風景

最前列（右から）小林（研究生）、須曾（非常勤助教）、千葉（客員教授・前助教授）、横山教授  
次列（同）松下（協力研究員）、青木、藤井（慶應大学保健管理センター）、稻葉名譽教授  
次々列（同）坂本（研究生）、美ノ谷（協力研究員）  
最後列（同）池田、黒澤



写真-1 5号館玄関前にて

最前列（右から）菊池名譽教授、横山教授、稻葉名譽教授、黒澤、池田  
次列（同）三橋、Azad（協力研究員）、谷本、松川、吉原（実験補助）  
最後列（同）篠原（前講師）、小林、泉宗